

1 日 時 令和2年11月19日(木) 9:59~12:07

2 場 所 総務省第二庁舎 6階 特別会議室

3 出席者

【委員】

宮川 努(部会長)、中村 洋一(部会長代理)、川崎 茂、白塚 重典

【臨時委員】

菅 幹雄、山澤 成康

【専門委員】

小巻 泰之、斎藤 太郎、滝澤 美帆、宮川 幸三

【審議協力者】

総務省、厚生労働省、経済産業省、日本銀行

【審議対象の統計所管部局】

内閣府経済社会総合研究所：長谷川総括政策研究官、谷本国民経済計算部長、
尾崎企画調査課長

総務省政策統括官(統計基準担当)：植松統計審査官、山岸調査官

【事務局】

(総務省)

統計委員会担当室：萩野室長、吉野政策企画調査官

(内閣府)

経済社会総合研究所：長谷川総括政策研究官、谷本国民経済計算部長、
尾崎企画調査課長

4 議 事

- (1) 国民経済計算の改定状況の検証及び一次統計の活用方法の改善余地等に関する検討
- (2) 家計最終消費支出、民間固定資本形成に係る統合比率の再推計結果
- (3) 平成27年(2015年)産業連関表参考表について
 - ①基本価格表示、②自社開発ソフトウェア等
- (4) 三面の整合性に係る研究会(中間報告①)
- (5) QEタスクフォース会合における審議結果報告
- (6) 毎月勤労統計調査データ修正への国民経済計算における対応

5 議事概要

(1) 国民経済計算の改定状況の検証及び一次統計の活用方法の改善余地等に関する検討

① 財分野

資料1-1に基づく事務局からのこれまでの検討経緯に係る説明の後、内閣府から資料1-2に基づき、財分野において、第一次年次推計から第二次年次推計への改定差が大きく、対応が検討中となっていた品目のうち3品目（サービス用機器、民生用エアコンディショナ及び電気照明器具）に係る対応方針についての説明があり、質疑応答が行われた。

今回の対応について委員からは、特段の異論はなく、部会長が次のとおり取りまとめた。

- ・ 報告された3品目については報告のとおり基準改定における対応を進める。
- ・ 民生用エアコンディショナと電気照明器具については、第一次年次推計から基準年に至るまでのシームレス化を、中期的課題としてしっかり検討すること。
- ・ 残された3品目（鋼船、清涼飲料、肉加工品）及び民生用エアコンディショナの質の向上に係る質問の回答については次回以降の部会で報告を受ける。

主な発言は以下のとおり。

- ・ 民生用エアコンディショナについて、空気清浄機能などの付加による品質の向上を適切に把握・処理できているのか。
- ・ 民生用エアコンディショナと電気照明器具については、第一次年次推計から第二次年次推計までに留まるのではなく、基準改定時の推計に至るまでの一貫した整合性確保・シームレス化も課題である。

② サービス分野

内閣府から資料1-3に基づき、サービス分野において、第一次年次推計と第二次年次推計で利用する基礎統計が異なるものを整理した上で、改定状況を検証した結果について報告を受けた後、質疑応答を行った。

委員からは特段の異論はなく、部会長が新たに創設された経済構造実態調査の活用方法について、調査実施者と連携しつつ検討を進めるよう、取りまとめた。

…略…